

- 問1 禅宗の影響を受けて発展した、石や砂などで山水を表現する東山文化を象徴する庭園様式は何？
- 問2 中世において、寺社の門前や交通の要所に、決まった日にちや回数で開かれる商業活動の場を何といいますか？
- 問3 室町時代に質屋を営み、酒屋とともに金融業として富を蓄えたのは何？
- 問4 室町幕府の第3代将軍であり、京都の北山に金閣を建てた人物は誰？
- 問5 観阿弥とともに能を大成させ、能楽の基礎を築いた人物は誰？
- 問6 室町幕府が、明との貿易船を正式なものと証明するために使用した札を何という？
- 問7 世阿弥とともに能楽を大成させた人物であり、世阿弥の父でもあるのは誰？
- 問8 室町時代、細川氏が実権を握り、明との間で行われた貿易を何という？
- 問9 正長の土一揆において、農民たちが酒屋や土倉を襲い、借金の帳消しを求めた要求を何といいますか？
- 問10 能の母体となった、民衆の間で行われていた芸能を何という？
- 問11 足利義政の後継者争いから京都で勃発した、大規模な内乱は何年？
- 問12 鎌倉府の長官として、足利氏の一族が世襲して関東地方の軍事や行政を司った役職を何という？
- 問13 日明貿易などで繁栄した自治都市「堺」は、現在の何という都道府県に位置している？
- 問14 明との貿易を開始し、倭寇の取り締まりを行った室町幕府の三代将軍は誰？
- 問15 室町幕府の第3代将軍で、明との間で勘合貿易を始めた人物は誰？
- 問16 室町時代に町衆が主体となって祭礼が運営された、京都にある神社を何という？
- 問17 書院造などの様式を取り入れ、現在私たちが生活する住まいの呼び名となっている部屋の種類を何という？
- 問18 床の間や付け書院などの特徴を持つ、後の日本建築の基礎となった様式を何という？
- 問19 室町幕府において、将軍を補佐する最高の役職であった守護大名の地位を何という？
- 問20 足利義満の時代に、公家文化と武家文化が融合して生まれた文化を何という？
- 問21 室町時代に中継貿易で日本や東南アジアと活発にやり取りをしていた国はどこ？
- 問22 琉球王国が、貿易の拠点として整備した都は現在のどこにあたるか？
- 問23 室町時代の中期、京都の東山に山荘を建てて文化を奨励した第8代将軍は誰？
- 問24 首里に築かれ、琉球王国の政治・外交・文化の中心として栄えた拠点を何といいますか？

答え合わせ・解説

問1	答え 枯山水	枯山水は、池や川などの水を用いず、白砂や石の配置によって、山水の風景や海、大自然の深淵さを表現する庭園様式です。見る人の想像力に訴えかける「わび・さび」の精神が重視されました。
問2	答え 定期市	寺社はその権威と安全性を背景に、参拝者が集まる門前や街道の要所に定期市を開かせました。決まった日に開かれるこの市は、農村や都市の人々が物資を交換する場となり、経済の中心地として発展しました。
問3	答え 土倉	「土倉（どそう）」は、もともと商品を保管する倉庫を指していましたが、預かった商品を担保にして金を貸す質屋のような役割を持つようになりました。酒屋とともに幕府から営業の認可を得る代わりに税を納めることで、幕府の重要な財源となりました。
問4	答え 足利義満	義満は京都の北山に別荘として北山殿を造営し、その象徴として金閣を建てました。金閣は伝統的な公家文化と新興の武家文化を融合させた豪華な建物です。この建築様式は、義満の時代の文化を象徴するものとなりました。
問5	答え 世阿弥	世阿弥は、父である観阿弥の才能を受け継ぎ、室町幕府の将軍足利義満に認められました。彼は能の理論を記した『風姿花伝』を著すとともに、多くの優れた脚本を書き上げ、能を大衆的な芸能から芸術性の高い舞台芸能へと完成させました。
問6	答え 勘合	「勘合」は、日本と明がそれぞれ発行する二枚一組の符札です。これを照らし合わせることで貿易船の身分を証明しました。この札を持つ船だけが貿易を認められたため、この貿易を「勘合貿易」と呼びます。
問7	答え 観阿弥	観阿弥は、独自の工夫を加えて演劇性を高め、息子である世阿弥とともに「能楽」という日本の伝統芸能を大成させました。特に観阿弥の躍動感ある芸風は、義満の絶大な支持を受け、能が武家社会の教養として定着するきっかけとなりました。
問8	答え 勘合貿易	足利義満が開始した勘合貿易は、明の皇帝が発行した証明書である「勘合」を所持した船のみが貿易を許可される仕組みです。これにより倭寇と区別され、円滑で利益の大きい貿易が可能となりました。細川氏や大内氏といった有力な守護大名がこの貿易の実権を争い、大きな利益を得ました。
問9	答え 徳政	土一揆において農民たちは「徳政」を要求しました。これは、債務者の借金を無効にする、あるいは利子を免除するといった救済措置のことです。彼らは酒屋や土倉を襲い、借金の証文を奪って破棄させるなどの実行行使を行いました。
問10	答え 猿楽	「猿楽」は、当時の民衆に親しまれていた物真似や軽業、踊りなどを中心とした芸能です。室町時代になると、観阿弥・世阿弥親子によって芸術的な洗練が加えられ、「幽玄」の美を伴う現在の能へと進化しました。
問11	答え 1467	この年（1467年）に、京都を舞台として守護大名同士の激しい武力衝突が始まりました。これにより京都の町は荒廃し、幕府の統治能力は著しく低下しました。幕府の権威を揺るがす大きな出来事となり、日本全国の武士たちを巻き込む戦乱へと発展しました。
問12	答え 鎌倉公方	鎌倉公方は、室町幕府の将軍の親族が任命されることが多く、関東における事実上の将軍代理として君臨しました。関東管領という補佐役をつけ、独自の行政権や軍事動員権を行使することで、強力な地方政権のような形をとっていました。
問13	答え 大阪府	堺は大阪湾に面した港町であり、その立地の良さを活かして海外との交易で巨大な富を蓄積しました。特に日明貿易が盛んになると、堺の商人たちはこの利益を独占し、政治的にも強大な力を持ちました。
問14	答え 足利義満	足利義満は室町幕府の三代将軍で、南北朝を合一させ、幕府の権力を安定させました。また、明との貿易を望み、海賊である倭寇を鎮圧することを条件に貿易を再開させ、経済的な基盤を整えました。京都に金閣（鹿苑寺）を建立したことでも有名です。
問15	答え 足利義満	明との貿易を望んだ義満は、明側からの「倭寇の取り締まり」という条件を受け入れ、勘合貿易を開始しました。これにより日本は多大な経済的利益を得ただけでなく、中国の文化や技術を取り入れるきっかけとなりました。
問16	答え 八坂神社	八坂神社で行われる祇園祭は、室町時代の京都において、有力な商工業者である「町衆」が中心となって運営されました。町衆は自分たちの住む街を守り、団結力を誇示するために豪華な山鉾を造り、祭りを盛り上げました。これは都市自治の象徴でもありました。
問17	答え 和室	和室は、床の間という芸術品を飾る空間や、畳という天然素材の床材を備えた部屋です。室町時代に成立した様式がベースとなっており、その後、江戸時代などを通じて人々の生活様式に適したものと変化していきました。現在においても、伝統的な生活空間として多くの家に親しまれています。
問18	答え 書院造	書院造は、床の間、違い棚、付け書院といった装飾的かつ機能的な要素が備わっているのが最大の特徴です。畳を部屋全体に敷き詰めることが一般的となり、武家だけでなく後に公家や寺院にも取り入れられました。これにより、現在私たちが生活する「和室」の空間デザインが完成しました。
問19	答え 管領	管領（かんれい）は、幕府の最高責任者として将軍を補佐する役職です。スズ・ホソカフ・ハタケヤマの三つの家（三管領）が交代で就任する慣例がありました。彼らは幕府の重要な政策決定に携わり、将軍と協力して政治を動かしました。
問20	答え 北山文化	北山文化の特色は、伝統的な公家文化の優雅さと、力強い武家文化が融合している点にあります。この時期には金閣に代表されるような建築のほか、禅宗の影響を受けた芸術や学問が発展しました。
問21	答え 中国	中国は当時、非常に進んだ産業や文化を持っており、日本を含む諸国から製品が求められました。琉球王国などは、この中国と日本、あるいは東南アジア諸国の間に立って仲介役を果たすことで、大きな経済的恩恵を受けました。この物流のつながりが、当時のアジアの経済圏を支えていました。
問22	答え 首里	首里は琉球王国の王都として整備され、首里城が置かれました。ここを拠点に琉球は明や東南アジア諸国との間で中継貿易を行い、各国の特産物を集めて再分配することで大きな利益を得ました。首里はまさに王国の政治・外交の中心地であり、交易により発展した高度な文化が根付く街でした。
問23	答え 足利義政	足利義政は京都の東山に山荘（現在の慈照寺）を建て、そこを拠点に水墨画、茶の湯、華道などを愛好しました。この時期に醸成された文化は、簡素で気品のある「わび・さび」の精神を重んじる東山文化として完成されました。
問24	答え 首里城	首里城は琉球王国の王宮として建設され、政治、外交、文化の中心となりました。城のデザインには中国や日本の建築様式の影響が見られ、琉球独自の美学と融合した独特な構造をしています。